



サロンで語らう「仲間」たち。注目するニュースや、地域の話題をやりとり

高齢の聴覚障がい者が気軽に集えるサロンを運営する「西部ろうあ仲間サロン会」。聞こえないことが当たり前空間に、手話でおしゃべりを楽しむ「仲間」たちの笑い声が響きます。

NPO法人 西部ろうあ仲間サロン会

気軽に集える場づくり

米子市内に昨年4月、県内初の聴覚障がい者のための常設型サロンが開設されました。運営するのは「西部ろうあ仲間サロン会」。孤立しがちな高齢の聴覚障がい者が気軽に集まり、情報の共有や地域住民を交えた交流を目的に活動しています。

サロンは週に3日開放され、誰でも立ち寄ることが可能です。そのうち月2回は利用者が自ら考えた活動を実施。その内容は、介護予防の体操や、食中毒についての勉強、観光施設の見学などバラエティーに富んでいます。サロン開設に合わせて改装しており、車いす利用にも対応。音ではなく視覚で知らせる警報装置、字幕や手話で視聴できるテレビ番組『目で聴くテレビ』の受信など、聴覚障がいがあることを前提とした環境が整っ

当事者の視点で共生社会を実現

ています。

理事長の森田忠正もりただただまささんは「こは手話が共通語。気軽に集まり、お茶を飲んだりおしゃべりしたりと、ゆっくり過ごしてほしい」と話します。

交流の中で理解を広げる

活動のもう一つの大きな柱は地域との交流。誰でも参加できるコミュニティ・カフェをサロンや市街地で開き、地域の住民や手話に興味のある人たちと交流を深めています。

また、難聴者への講習や小学生との交流学习、企業研修などで積極的に地域と関わり、生きた手話を伝えます。「交流が広がり、仲間の笑顔も増えました。運営は厳しいですが、サロンを軸にいろいろな取り組みを試行錯誤し、諦めずに続けていきたい」と力強く話す森田さん。
今年4月から、外出が難しい



見守り訪問の様子。秋の話題で会話が弾む

人のため、見守り訪問を本格的に始めました。利用者からは「こういう事業を待っていた」と好評。聞こえない人同士も支え合い、共に活動する「仲間」の輪が着実に広がっています。

取材を終えて

森田さんの手話の表情の変化や表現の豊かさに圧倒されました。手話は手や指の動きだけでなく、顔や全身の動きも含めたものと実感。

(田)